

警城時報

福島縣警部 平田 耕一
編集 警部 平田 耕一
印刷 印刷所 加納 活版所
発行 印刷所 加納 活版所
一部金五銭 一月金五十銭
廣告料 二行四角 三行五角
A日刊 (日曜、祭日) 休刊

迷宮入りの寸前に

恐怖の怪火事件解決

眞犯人は月見町の火防組長 昨曉放火十一件全部を自白

平町民を戦慄せしめてゐる月見町十二日一杯休養せしめた上今十別項放火魔伊藤喜一郎の自白に町新、川町方面の怪火事件は既に三日午前九時から安藤部長の手よりさし、迷宮的怪火事件も解報の如く横山署長以下全署員が依つて取調を開始したが案外決を見るに至つたが今春來平町不眠不休の活動を續けた結果去素直に自ら自白を續けて東部方面の怪火は實に十四回の八日に至り最も有力の容疑者である。斯くて今春以來半歳の久多敷に達してゐるが、此の中過して豫ねて身邊監視中だつた月見町に亘り三萬町民を極度に戦日新川町上村木工場から放火見町火防組長伊藤喜一郎(四〇)懐せしめた怪火事件は平署不休附近六戸を全焼した怪火を始めを本署に引致後引續いて留置の努力に依つて解決を見るに至る。佐藤工場及新川町野良方の川島司法主任、安藤刑事部長のつた。全焼怪火事件の三件だけは頑強に自白を否んで居り當局も伊藤の放火とは手口の相違を認めてゐるから依然謎の事件として残されてゐる。

謎深まる 佐藤工場と丸上の火事

殊勳第一は安藤部長 犯人檢舉の苦心を語る横山署長

今春怪火事件勃發以來半歳、東奔西走迷宮入りの寸前に犯人を檢舉見事に自白せしめた殊勳の横山署長は十三日午前十時在平記者團に事件の一切を發表し、色に包まれたが、
「色々御心配をかけました。當初から伊藤の仕業と睨んでゐましたが、假りに火防組長の要職に在るだけ其の檢舉までには随分苦心したものであり、喜一郎の放火自白の報には

半歳の苦心報はれ

犯人檢舉を見るまで…… 科學的捜査の威力

事件發覺の經過は今春來頻發すヶ月の久しきに及び横山署長以る月見町、新川町方面の怪火は下幹部署員の合同會議を開く事各れも同一人の放火であると思實に五回、各方面の情報を持寄込んだ平署では同方面一帯に亘つて研究捜査を續けた結果去る一齊に戸口調査を爲し前科者六日午後十時最後の合同會議に精神異常者、其の他舉動不審な於いて犯人は安藤部長が最初に者全部に對して嚴重監視を續け日星を付けた火防組長の伊藤喜一郎と決定、八日遂に檢舉を見毎夜密行勤務三回以上其の間一たものである。

號令したこの虚榮 放火原因は頗る單純

放火の原因は未だ判明しないが組員に號令する快をむさぼりた犯人伊藤は性來の酒豪で現在酒さからと、鎮火後酒が飲めるとの中毒症候さへ見えるが、精神言つた草率なもので、附近のもの異版からではなく火事の度に今夏八月から伊藤の舉動火防組長の半纏姿で出勤し多數に不審を抱いてゐた。

月見町青年團と 火防組幹部總辭職

火防組長伊藤喜一郎が恐怖の怪なり直ちに辭表を關係筋に提出火事件眞犯人と決定した結果豫ねて斯くあるべしとして寄々協議を進めてゐた月見町火防組、青年團は十二日夜緊急幹部會議を召集協議の結果火防組組長諸橋房吉氏外八名、青年分團長佐藤源吉氏外八名の幹部全員、消防手鈴木專一、同鈴木勇の二十名は責を負ふて連袖辭職する事に

諸橋副組長以下謹慎 申請ありませんと語る

「何んとも申請ありませぬ、私は就任以來僅十ヶ月余りです、自分等の組長が單に檢査者の噂さにつただけで今まで伊藤君に上職すべきで今まで伊藤君にも數回辭職を勧告して居りました、遂に伊藤君が眞犯人と決定したをうで平町の火防史に一大汚点を印した事は私共、新年會等を目前に控へこの

参考人 調

犯人送局は 十五日頃か

伊藤喜一郎の放火事件自白に喜色溢れてゐる平署では今十三日早朝から月見町火防組代理諸橋副組長以下關係参考人として同方面から男女三十余名の出頭を求め取調してゐるが、今明中に全部の取調を終り書類作製の上十五日頃までには犯人伊藤を送局する豫定である。

弓道競射會 武徳會分會

では來る二十二日福島武徳殿に開かれる弓道大會に出場する石城郡選手を決定するため十四日午前九時から平署内弓場で競射會を催す。

四倉野球大會 四倉町鶴

鳴會主催優勝旗爭奪野球大會は來る十五日午前八時より同町小学校々庭に於て開催するが参加チームは七チームである。

旗亭大貞の努力

板前の牙に湧く好評

柔剣道選手

平署で豫選

徒弟 至急入用

加納活版所

平地方の代表旗亭として知られる種々の計劃のある人々の間に早くてゐる平町町大貞は氣持よく問取りの良きや、その設備から女中に至るまですべて主人大久保貞吉氏の客本意の細心の注意が行届き、殊に料理は帝都一流の板前の自慢の調理で既に古くから評判を得し、所謂「通」のお客で繁忙を極めてゐるが、今や味覺の秋が訪れ宴會の季節が近づいたのを好機とし報恩と奉仕の意味で大衆向きのサービスを試みる事になつた。

宴會は大小に拘はらず大歡迎。總ては「大貞」宣傳の目的意外に何物もないのだから酒持ち込み、會費などは如何に少なうも料理だけは「食遊樂大貞」として恥ぢぬ品々を取揃えること決定したをうで平町の火防史に一大汚点を印した事は私共、新年會等を目前に控へこの

